

Mexiko

Mejico

México

メツィコ/メジコ/メキシコ：メキシコ現代写真入門

講師 ホスエ・G・ゲレロ (映像研究者, 京都造形芸術大学博士課程)

Manuel Marfión Acuña, Doppleganger, 2014. Image Courtesy of the Artist.



メツィコ、メジコ、メキシコ——かつて様々な名で呼ばれたこの土地は、色鮮やかで、複雑な歴史を持つ国である。

政治的、経済的困難に絶えず揺り動かされてきた結果、メキシコの芸術シーンは社会運動とは切っても切り離せない関係にある。こうした背景によって、メキシコでは前ヒスパニック世界とラテン世界が混淆した独自の文化が形成された。

<プロジェクト_残丘>セッション #05 では、メキシコ生まれ、京都在住の映像研究者ホスエ・ゴードン・ゲレロ氏が、メキシコ市で開催されるここ最近の写真ビエンナーレを振り返りながら、現代において最も重要な写真家たちを紹介する。また、彼自身の来日中の研究テーマである「現象学的写真論」について聞く。

2018/ **7/14** (土)
5:30-7:30 pm

於：新井卓写真事務所
英語／日本語 (逐次訳)

席料1,000円 (学生無料) / 25席

下記より要予約：
takashiarai.com/events/monad-05/



ホスエ・ゴードン・ゲレロ

ゲレロはメキシコ生まれ、京都在住の映像研究者、写真家で、現在、京都造形芸術大学博士課程にて日本写真研究と写真制作を平行して行う。美術史と視覚実験理論を混合した幅広い視点から映像を指向し、映画、映像作品、写真を主たる関心領域としている。ゲレロはメキシコ、モンテレイ工科大学でコミュニケーション学を専攻、メキシコ国立自治大学院で視覚芸術学修士号を四席で取得後、2013年から2015年まではモンテレイ工科大学コミュニケーション学科に所属する。

PROJECT
MONADNOCK